

黒船来訪（峰章山）

時は 惟嘉永 六年の夏

黒船 突として 来る 浦賀の 涯り

人 皆 驚嘆して 鐘を 敲いて 騒ぎ

早馬 報を 携え 鞭を 重ねて 馳す

鎖国 日本 意は 固しと 雖も

外夷 破らんと 欲す 堅閉の 籬

危に 臨んで 幕閣 幾たびか 協議す

神州の 守護 誰か 之を 成さんと

時惟嘉永六年夏 黒船突来浦賀涯
人皆驚嘆敲鐘騒 早馬携報重鞭馳
鎖国日本雖意固 外夷欲破堅閉籬
臨危幕閣幾協議 神州守護誰成之

解説 鎖国を貫いてきた日本に突然、黒船が来航し、慌てる日本の様子を描いた作品。

語釈 ※黒船Ⅱマシユ・ペリーが率いる米国合衆国海軍東インド艦隊。

※来訪Ⅱ蒸気船二隻を含む艦船四隻が、日本に来航した事件。

※嘉永六年Ⅱ坂本龍馬が、千葉定吉の道場に入門した年。ペリーが来航。それまでは長崎の出島が主な貿易処であった。※突Ⅱ突然。※浦賀Ⅱ神奈川県横浜市東部にある地域。※驚嘆Ⅱ思ひも及ばない物事に接して、おどろき感心すること。※早馬Ⅱ早打はやうちの使者の乗る馬。急使の馬。※鎖国Ⅱ日本が外交・対外交通・貿易を極端に取り締め、制限したことから発生した国際的な孤立状態をさす。※外夷Ⅱ外国。※堅閉Ⅱ堅く閉じる。※籬Ⅱ間を隔てる。※幕閣Ⅱ幕府の最高行政機関。※協議Ⅱ集まって相談すること。※神州Ⅱ日本で自国を誇つていう。※守護Ⅱて軍事行政を統轄した武士またはその機構。

通釈 時は嘉永六年の夏。黒船が突如として浦賀に現れた。黒船を見たことが無い人々は驚き、鐘を敲いては騒ぎ、早馬を繰り出した。鎖国であった日本は意思は堅く、外国に対して入国を拒否すれど、江戸幕府の行政機関たる役人は協議をするのみ。この日本の守護はいつたい誰が行うのだろうか。